

牧師室から (9.19)

うちの愛犬アイネが今年4月に死んだ。12年8ヶ月で、一年近くの闘病生活の末であった。その痛ましい姿を見るのがあまりにも辛かったので、もう二度と犬は飼わないと思っていた。

それにもかかわらず、4ヶ月後、新しい犬を連れてきてしまった。踊るように飛びあがりながら、夢中になって遊ぶ姿があまりにも可愛かったので、「もう大きくなっているので、そのままならブリーダーさんに返され、繁殖犬か、保護犬になるよう。可哀想だから・・・」と言い訳をし合って、つい、家に連れてきた。この犬を部屋に置いた瞬間、猛烈な勢いで走り回った。それが何時間も続いたので、この子大丈夫かな、と心配になるくらいだった。今は落ち着いたし、自分のトイレも覚えるようになったが、大人しかったアイネとは違って陽気で、気が強い。生きるのが楽しくて仕方がないようだ。まだ幼いせいでもあるのか、絶えず、いたずらするものを捜し回っている。ただ、殆ど吠えないので、隣の奥さんに挨拶をしたら「ワンちゃんの声が聞こえないですね」と言われ、「『だめ』と叫ぶ私の大声が聞こえるのかも」と笑った。

暫く、隠し子のように家の中にいたが、今は散歩に出かけるようになった。ワンちゃんのママたちから、「教会の方ですよ。前は白い犬でしたね。」と言われた。大抵同じ時間に公園で散歩をするので、自然に集まるような感じで、それぞれの犬を前にして、色々な話し合いをする。その方々に「うちのメグです。6ヶ月になります。宜しくお願いいたします」と挨拶を終えた。大きな犬たちに囲まれて恐れながらも、ママたちの優しい声かけにルンルンしているうちの子であった。

ちなみに名前を、踊るような最初の印象にちなんで「舞(まい)」とつけたかったが、淳一牧師の友人の奥さんのお名前がそれであることに気づき、思い巡らした末、「メグ」にした。町のある奥さんが「うちの末娘がめぐみだよ」と大笑いしながらメグを優しくなでてくれた。

この子の存在が私たちにとって神様の恵みになることを願う。若草物語の姉妹の一人の名前も同じであって、そこでは四女のうちの長女だが、この子は次女である。

黒色が混じっている毛色の柴犬で、キツネ顔である。初めてのの方は怖い印象かも知れないが、見た目によらずフレンドリーである。

「でも、犬が苦手な方はご遠慮なくおっしゃってください。

これからよろしく願いいたします。」

(鈴木善姫牧師)